

権兵衛トンネル 19日復旧

片側交互通行 午後5時から

台風19号による道路崩落で通行止めが続いている上伊那郡南箕輪村の国道361号権



仮橋の架設工事が進む国道361号の崩落箇所 13日、南箕輪村(飯田国道事務所提供)

台風19号による道路崩落で通行止めが続いている上伊那郡南箕輪村の国道361号権兵衛トンネルについて、国土交通省は16日、片側交互通行で19日午後5時に通行を再開すると発表した。崩落箇所には仮橋を架ける工事は16日時点で8割ほどが完了。上伊那地方と木曾地方を結ぶ主要幹線の寸断は、約2カ月ぶりに解消される見通しとなった。

一方、有識者らによる同省の災害復旧技術検討委員会は16日、伊那市内で3回目の会合を開き、本復旧について、道路崩落箇所を補強した上で崩落前と同じ場所に通すとする工事方針を了承した。ただ、本復旧に向けた工事の着手時期は未定という。

仮橋は鉄骨製で長さ15メートル、幅4メートル。トラックや観光バスも通れる。トンネルの伊那市側出入口付近に、新たに橋台を作り、権兵衛2号橋の橋台との間に仮橋を設置。片側交互通行区間は約300メートルで、安全面を考慮して連続雨量が60ミリに達した場合などは通行止めにする。同省飯田国道事務所(飯田市)は悪天候などで工事が予定通りに進まない場合、再開が19日午後5時以降になるとしている。



復旧工事では、橋台付近で土砂が流出していない山側にコンクリート製のくいを2本打ち、橋台とつなげることで傾かないようにする。さらに、橋台を囲むように直径1.5メートルの鋼鉄製の管を隙間なく打ち込み、土留めの壁を設ける。

同事務所は崩落原因についてこれまで、台風19号による豪雨でトンネル出入口付近の深さ5メートル前後の地層から地下水が流出した一との推定結果を報告。11月下旬から、地下水が流出した地層に横方向から複数の穴を空けて橋台から離れた場所に排出する工事を実施した。その結果、崩落箇所からの湧き水が大幅に減り、元通りに道路を通せると判断した。

権兵衛トンネル一帯は、県が10月20日に入入り口の約20メートル前で橋台付近の斜面が大きくえぐられているのを確認し、通行止めにした。

台風被災地 そば焼酎で支援

佐久市平賀の「芙蓉酒造協同組合」は、台風19号で被災した地元を応援するため「信州本格そば焼酎原酒 佐久一魂」を300本限定で販売している。同酒造企画開発部長の依田昂憲さん(38)が、酒造りを通じて被災地に役立てることはないか—と考え、企画。売上金の一部は市に寄付する。

佐久の芙蓉酒造協同組合

依田さんは台風の直後、同市中込杉の木地区で、泥をかき出したり家財道具を運んだりボランティア活動に従事した。その際、本業で被災地に役立てることがあるのではないか—と思い立ち、昨年から熟成させてきたそば焼酎を、チャリティー向け商品に切り替えた。

原料に地元産のソバを使ったほか、「佐久」にちなんでアルコール度数は39度、価格も3900円(720ミリℓ)に設定。「一魂」には、佐久を酒で一つに結び付けたい—との願いを込めた。アルコール度数が40度近いため力強い味だが、すっきりとした後味があり、そばの香ばしさが特徴という。

依田さんは「(酒造りは)地域の恵みを受けながらできる商売。被災した地元に貢献したい」と話している。

販売は来年1月31日まで。問い合わせは芙蓉酒造(☎0267・62・0340)へ。注文はホームページ(<http://www.fuyou.org>)で受け付ける。

売上金の一部は市に寄付



「佐久一魂」のボトルを手にする依田さん